令和6年12月26日

水戸市長 高橋 靖 様

水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議

座長 佐川 泰弘

水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る事業等の評価を踏まえた事業の 推進について（意見）

当会議におきまして、水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2次）の総合評価、デジタル田園都市国家構想交付金及び地方創生応援税制の活用事業の評価、水戸市の移住促進に向けた取組について、慎重に審議いたしました。

それを踏まえ、今後の「若い世代に選ばれる MITO づくり総合戦略ーデジタル×まち・ひと・しごと創生（第3次）ー」推進に当たって、下記のとおり意見を提出いたしますので、貴職におかれましては、本意見を十分に考慮し、事業を推進されるよう要望いたします。

記

<全体について>

- (1) 移住・定住の促進に当たっては、人口動態の傾向を把握することにより、どのような取組が必要であるかが見えてくるものと考えられる。特に、若い世代の人の流れをしっかりと分析することにより、効果的な取組を展開されたい。
- (2) 若い世代に選ばれるまちの実現に向けては、若者が地域の未来に希望を持てることが重要であることから、新しい価値観を持った若者のチャレンジを、年長者を含め、まち全体が応援していると理解される環境づくりを進められたい。
- (3) ふるさと納税による寄附を積極的に推進し、財源の確保を図りながら、子育てや若者に対する支援の充実に努められたい。

<施策の柱Ⅰ しごとの創生>

- (4) 企業誘致については、雇用の創出や地域経済の活性化が図られ、市の税収増にもつながることから、規制の緩和も含め、積極的に推進されたい。
- (5) 性別による固定的役割分業意識の解消に努め、市民のワークライフバランスの充実に図るとともに、女性が生き生きと活躍している姿を発信することで、選ばれるまちづくりを進められたい。

- (6) 東町運動公園アリーナの改修については、事業の目的や予算、事業により得られる効果等について、市の財政状況とともに、市民に対して丁寧な説明を行われたい。

<施策の柱Ⅱ ひとの創生>

- (7) 自然動態の改善に向けては、出生数を増加させていく必要がある。子育て支援施策の充実のもとより、民間との連携を深めながら、出産、子育てをしやすい環境づくりを進められたい。また、それらが移住希望者だけでなく、水戸在住の若い世代にもしっかりと伝わるよう、効果的な情報発信に取り組まれたい。
- (8) 大学生や高校生等が、アンケートの実施やPR動画の作成などの市の施策に主体的に関わることにより、若者の視点を取り入れたまちづくりを進めることができるだけでなく、若者にとっても水戸の良さを知る経験にもつながることから、積極的に若者の力を得ながら各施策を推進されたい。

<施策の柱Ⅲ まちの創生>

- (9) シェアサイクルについては、駅やバス停等の交通結節点にステーションを設置するなど、公共交通とのつながりも意識しながら、整備を進められたい。
- (10) 海外からの留学生等の外国人が暮らしやすく、水戸の魅力を体感できる環境づくりを進められたい。また、水戸の子どもたちが外国人との交流を深めることにより、子どもたちの視野が広がるとともに、自ら考え、行動する意識を養うことにもつながるため、積極的に交流の機会づくりを進められたい。

<施策の柱Ⅳ シティプロモーション>

- (11) 若い世代は、受動的な媒体により情報収集している傾向があることから、TikTok やインスタグラム等の SNS を積極的に活用するとともに、本市で生き生きと暮らす人々を動画で紹介するなど、地域に未来や希望が感じられるような情報発信に取り組まれたい。
- (12) 移住検討者へのプロモーションの実施に当たっては、ライフスタイルの提案等を含め、他の地域と比較して水戸の強みであるポイントをしっかりと示し、戦略的に取り組まれたい。
- (13) 本市には留学生やスポーツ選手など、多くの外国人が居住していることから、外国人の視点による情報発信に一層力を入れるとともに、外国人向け体験メニューの開発など、インバウンドの推進にも取り組まれたい。